

# GPS/JIPS 安全性要約書

## 物質名

ピリジン

## 物質の概要

特異臭のある、ほとんど無色の透明液体で、高い引火性があります。

飲み込む、吸入する、皮膚に接触したりすると有害です。

眠気やめまいをおこしたりするおそれがあります。

呼吸器、神経系の障害が認められます。

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷を引き起こします。

発ガンのおそれの疑いがあります。

生殖能または胎児へ悪影響を及ぼすおそれの疑いがあります。

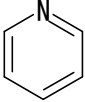
長期間の、または反復暴露により肝臓、神経系、腎臓の障害が認められます。

長期間の、または反復暴露により血液系の障害のおそれがあります。

水生生物に非常に強い毒性があります。

一般的用途として、抗菌剤ジंकピリチオン等の原料、医薬品合成溶剤、飼料添加剤原料、加硫促進剤原料、アルコール変性剤の用途があります。

## 化学的特性

一般名	ピリジン			
商品名	ピリジン			
別名	アザベンゼン			
化学名	Pyridine			
CAS 番号	110-86-1			
官報公示整理番号	化審法	(5)-710	安衛法	公表
分子式	C <sub>5</sub> H <sub>5</sub> N			
構造式				

## 物理化学的特性

物理的状态	液体
色	ほとんど無色
臭い	特異臭
pH	信頼性のあるデータはありません。
融点/凝固点	-42°C
沸点	115°C (101.3kPa)
引火点	16°C (タグ密閉式)
自然発火温度 (発火点)	480°C
燃焼限界—上限 (%) -	10.6 vol %
燃焼限界—下限 (%) -	1.7 vol %
蒸気圧	2000Pa (20°C)
蒸気密度 (Air=1)	2.73
比重	0.989 (15°C/4°C)
溶解度 (水)	1000g/100g (20°C)
溶解度 (その他)	アルコール、エーテル、ベンゼン：可溶
n-オクタノール/水分配係数	log Pow = 0.65
分解温度	信頼性のあるデータはありません。

## ヒト健康影響安全性評価

危険有害性項目	評価結果
急性毒性	飲み込む、吸入する、皮膚に接触したりすると有害です。 眠気やめまいをおこしたりするおそれがあります。 呼吸器、神経系に障害が認められます。
皮膚腐食性/刺激性	重篤な皮膚の薬傷を引き起こします。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	重篤な眼の損傷を引き起こします。
呼吸器感作性	評価できるデータがありません。
皮膚感作性	評価できるデータがありません。
反復投与毒性	長期間の、または反復暴露により肝臓、神経系、腎臓の障害が認められます。 長期間の、または反復暴露により血液系の障害のおそれがあります。
生殖細胞変異原性	有害性を示す懸念は低いと考えられます。
発がん性	発ガンのおそれの疑いがあります。
生殖毒性	生殖能または胎児へ悪影響を及ぼすおそれの疑いがあります。
吸引力呼吸器有害性	評価できるデータがありません。
その他の影響	-

\*上記評価はGHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals : 世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステム)に従って行なっています。

## 環境影響安全性評価

危険有害性項目	評価結果
水生環境有害性（急性）	水生生物に非常に強い毒性があります。
水生環境有害性（慢性）	有害性を示す懸念は低いと考えられます。
オゾン層への有害性	オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書（改訂版）：リストに掲載されていません。
その他の影響	-

\*上記評価はGHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals：世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステム)に従って行なっています。

環境中の運命・挙動	
生分解性	環境中で容易に分解されます。
生物蓄積性	生物蓄積性は低いと考えられます。
PBT/vPvB（注）	PBT、vPvB いずれにも該当しないと考えられます。
土壌への移行性	-
環境中の分配	-
その他	-

（注）PBTとは、「Persistent, Bioaccumulative and Toxic」を略したもので、環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する物質のことです。またvPvBとは、「Very Persistent and Very Bioaccumulative」を略したもので、環境中に非常に残留し、非常に高い生物蓄積性を有する物質のことです。

## ばく露

ばく露に伴うリスクを低減するために、次項に記載のリスク管理措置が推奨されます。

作業員ばく露	当該物質は、連続反応による閉鎖系プロセスで製造されるので、製造作業員へのばく露の可能性は極めて限られます。 ただし、サンプリング作業、充填作業を行う場合は、吸入や皮膚・眼との接触の可能性があります。 当該物質が原料、中間体、反応溶媒として使用される場合は、曝露機会のあるバッチプロセスでの作業であり、作業員への経皮、吸入曝露の可能性がります。
消費者ばく露	当該物質は、一般消費者にて使用されることはありません。また、当該物質が原料、中間体、溶媒として使用される場合も、精製工程等により除去されるため、最終製品への残存は極めて低いと考えられます。
環境	当該物質は、閉鎖系プロセスで製造されるので、環境への排出は極めて限られます。 当該物質が原料、中間体、反応溶媒として使用される場合は、連続あるいはバッチプロセスで使用され、大気及び水環境へ放出される可能性があります。

推奨リスク管理措置

作業者ばく露	<b>技術的対策</b>
	下記に記す保護具を着用する。
	<b>局所排気・全体換気</b>
	管理濃度・許容濃度以下に保つために、密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。
	<b>許容濃度</b>
	職業的許容濃度の勧告値として、ACGIH(米国産業衛生専門家会議)より、1ppm(TWA-時間加重平均値-)が公表されており、当該物質の製造・使用場所では、この勧告値を下回るよう管理・制御する。
	<b>保護具</b>
<b>呼吸器の保護具</b> 防毒マスク、送気マスク	
<b>手の保護具</b> 耐薬品用手袋	
<b>目の保護具</b> 密着保護眼鏡（ゴーグル）顔面シールド（フェイスシールド）	
<b>皮膚及び身体の保護具</b> ゴム製または不浸透性保護長靴、不浸透性保護衣、安全帽（ヘルメット）	
<b>注意事項</b>	
	吸入、皮膚粘膜への接触を防止するための個人用保護具を着用する。取扱い後は手洗い洗顔を十分行う。換気の良い場所で取扱う。取扱う周辺は火気厳禁とし、火気、静電気、衝撃火花などによる着火源の生じないように注意する。取扱い後はよく手を洗うこと。
消費者ばく露	当該物質は、一般消費者にて使用されることはありません。また、当該物質が原料、中間体、溶媒として使用される場合も、精製工程等により除去されるため、最終製品への残存は極めて低いと考えられます。
環境	環境中に放出してはならない。
漏出時の緊急処置	作業をするときは保護具を着用する。風下の人を退避させる。漏出した場所の周辺にはロープを張るなどして立入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。消化用機材を準備する。漏れた液やこぼれた液を密閉式の容器に出来る限り回収する。こぼれた液を弱酸で注意深く中和する。すべての発火源を速やかに取除く。

法規制情報/分類・ラベル情報

<b>法規制情報</b>	
消防法	危険物 第四類 第一石油類 水溶性 危険等級Ⅱ
船舶安全法	引火性液体類
化審法	既存化学物質
労働安全衛生法	危険物 引火性の物、名称等を通知すべき有害物
化学物質管理促進法 (PRTR 法)	第一種指定化学物質
大気汚染防止法	特定物質
海洋汚染防止法	有害液体物質 (Y 類物質)、海洋汚染物質

航空法	引火性液体
港則法	引火性液体類
国連分類	3
国連番号	1282

GHS 分類		
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	区分 3
	急性毒性（吸入）	区分 4
	皮膚腐食性・刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	区分 1（呼吸器、神経系） 区分 3（麻酔作用）
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	区分 1（肝臓、神経系、腎臓） 区分 2（血液系）

GHS ラベル要素	
絵表示またはシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	<p>引火性の高い液体および蒸気          飲み込むと有害（経口）          皮膚に接触すると有害（経皮）          吸入すると有害（蒸気）          重篤な皮膚の薬傷          重篤な眼の損傷          発がんのおそれの疑い          生殖能または胎児に悪影響のおそれの疑い          臓器（呼吸器、神経系）の障害          眠気およびめまいのおそれ          長期にわたる、または反復暴露による臓器（肝臓、神経系、腎臓）の障害          長期にわたる、または反復暴露による臓器（血液系）の障害のおそれ          水生生物に非常に強い毒性</p>

## 連絡先

会社名 広栄化学工業株式会社  
 住所 千葉県袖ヶ浦市北袖 2 5 番  
 担当部門 レスポンスブルケア室  
 電話番号 0438-63-5533

## 発行・改訂日

改訂情報		
区分	年/月	改訂箇所
制定	2012 年 7 月 24 日	

## その他の情報

国際機関、各国当局によるレビュー	
厚生労働省 環境省	GHS 関係省庁連絡会議 平成 18 年度事業（出典：NITE CHRIP VI. 各国有害性評価情報 <a href="http://www.safe.nite.go.jp/ghs/0178.html">http://www.safe.nite.go.jp/ghs/0178.html</a> ）
経済産業省	化学物質安全性(ハザード)評価シート （出典：NITE CHRIP VI. 各国有害性評価情報 <a href="http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/data/pdf/hazard/sheet/2001-70.pdf">http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/data/pdf/hazard/sheet/2001-70.pdf</a> ）
新エネルギー・産業技術総合開発機構	有害性評価書/初期リスク評価書 （出典：NITE CHRIP VI. 各国有害性評価情報 <a href="http://www.safe.nite.go.jp/risk/files/pdf_hyoukasyo/259riskdoc.pdf">http://www.safe.nite.go.jp/risk/files/pdf_hyoukasyo/259riskdoc.pdf</a> ）
環境省	化学物質の環境リスク初期評価 <a href="http://www.env.go.jp/chemi/report/h16-01/pdf/chap01/02_2_16.pdf">http://www.env.go.jp/chemi/report/h16-01/pdf/chap01/02_2_16.pdf</a>
IPCS	IPCS(国際化学物質安全性計画)による国際化学物質安全性カード <a href="http://www.inchem.org/documents/icsc/icsc/eics0323.htm">http://www.inchem.org/documents/icsc/icsc/eics0323.htm</a>
米国	EPA(環境保護庁)によるリスク情報システム <a href="http://www.epa.gov/iris/subst/0261.htm">http://www.epa.gov/iris/subst/0261.htm</a>
NTP	長期試験レポート <a href="http://ntp.niehs.nih.gov/?objectid=070A864E-C4F9-A4C1-0565F4A56E271B99">http://ntp.niehs.nih.gov/?objectid=070A864E-C4F9-A4C1-0565F4A56E271B99</a> <a href="http://ntp.niehs.nih.gov/ntp/htdocs/LT_rpts/tr470.pdf">http://ntp.niehs.nih.gov/ntp/htdocs/LT_rpts/tr470.pdf</a>

## 免責事項

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学物質管理の取組み(GPS/JIPS=Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象物質に関する安全な取扱いに関する概要を提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を詳しく提供するものではありません。記載内容は、弊社が発行するMSDS(製品安全データシート)等にもとづいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。